たちばな新聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あ関係者電話 0
42-558-2663

お盆

七月十三日（月）～十六日（木）お盆期間
★七月十七日（金）十一時よりお施餓鬼法要
お盆にはお花を供えご家族で墓参いたしましょう

お施餓鬼はお盆の行事として行われることが多いのですが、それは阿難尊者の故事に由来します。お釈迦様の十大弟子の一人に、説法を一番よく聞いた阿難尊者という方が、ある日、一人静かに座禅していると、焔口（えんく）という「餓鬼」が現れ「三日のうちにお前は死ぬ。そして『餓鬼道』に墜ち、俺とおなじ醜い『餓鬼』になるだろう」と告げたのです。

驚いた阿難尊者は、お釈迦様にそのことを話し、どうしたら良いかお尋ねすると「たくさんの僧のお経の力と、たくさんの飲食物を供えて、施餓鬼会を催しなさい。お経の力によって、供えた飲食物は無量の供物となってすべての餓鬼に施され、仏道成就の扶けとなるであろう」と諭されました。

阿難尊者が、教えに従って施餓鬼棚を設け、山海の産物を供えたくさんのお坊さんとともに読経して供養を営んだところ、命を長らえたばかりでなく、お釈迦様の弟子の中で最も長生きされたことが「救抜焔口餓鬼陀羅尼経」に説かれています。

つまり、仏道を成就するためには、いかに説法を聞いて座禅しても、独りよがりの悟りを求めるのでは餓鬼道に墜ちることを教えているのです。自分がこの世に生かされている功徳は、この世の人ばかりか、あの世の萬霊にも施し、自分たち人間はもとより、この世の生きとし生けるものすべてが、ともに仏道を成就したい、と願う生き方が私たちの願いでなくてはなりません。

現代の日本は飽食の時代といわれていますが、一見豊かそうに見えるこの社会にどこか冷たい空虚さを感じます。何もない時代には、お互いにいたわり合って少しの物も分け合って食べ、着る物も大切に繕い、住居も狭いながらも一家団欒を楽しんできました。個人の欲を押さえて皆が心を一つにしていたときは、恵まれない生活でも我慢して、それなりに楽しく心豊かに過ごしてきたわけですが、豊かな生活を得られるようになると、他人より綺麗に、他の人よりも金持ちにと、自分の欲望が強くなります。こうした心の動きが、冷たい空虚さを社会に蔓延させていると思われます。

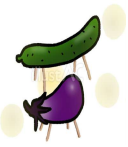
この点についてお釈迦様は「欲にとらわれ、生の快楽にとらわれている人は解脱しがたい」と指摘され、自分が満たされていることに気付かず、いつまでも我欲・不満をもって〃足りない、足りない〃と追い求める心を「餓鬼」と呼びます。

「足ること知らざるは富めるといえども貧し」（法句経）

いま、私たちは、豊かさの中で、他人を思いやる心が薄れ、自己中心的になり、物の大切さ有り難さの感謝の気持ちを忘れ、心は貧しくなってきていて「餓鬼道」に墜ちてゆく気がします。

施餓鬼会とは、私たち人間のそのような「餓鬼」の心を反省し、人間本来の願いを蘇らせるために行われる大切な法会でもあります。

どうぞ、己の心に眼を向けて、霊界の「餓鬼」と心に巣食う「餓鬼」に手を合わせ一心に供養致しましょう。



宝清寺の年中行事

二月節分	厄除け・星祭
三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり（灌仏会）
四月八日	オリエンテンプリング
七月十七日	お盆塔婆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お会式法要
十二月初旬	お釜締札

住職ひと口法話　第八十五回

現代社会における人間関係の希薄化には様々な要因が考えられます。私たちの生活の中で、ネットやＳＮＳは欠かせない存在になっていて、便利さや情報収集の手段として優れていますが、一方で人間関係を希薄にする要因となっています。

ＳＮＳ上での「いいね」や「フォロワー数」は、実際の人間関係の質を測るものではありません。オンライン上のつながりが増えることで、リアルなコミュニケーションが減少し、孤独感を感じる人が増えているそうです。

我々は広い社会に住んでいるといわれていますが、実際、具体的に自己の接する範囲は、テレビ・新聞・雑誌・書物等で概念的に知っているだけで、我が身が直に触れている社会は甚だ小さいものに過ぎないと思われます。そこで大切なのは、何が自分たちに生き甲斐を感じさせているか、人間と人間との具体的な結びつきの在り方を考えることではないだろうか。

我々は学校・職場や街頭で、多くの人と政治的、経済的なコミュニケーションがとれるが、それは単なる生活のためには良いと思うが、考えの違う人間にとって精神的に満たされることは少ないと思う。人間と人間の基本的な結びつきは邂逅（思いがけない出会い・巡り会い）が最も重要だと思われる。いついかなる偶然により、誰と出会ったか、どんな影響を受け、どんな関係が生まれたかが、その人の一生を決定する場合が少なくありません。

読書も一種の邂逅であると思う。書物を通して心と心が触れ合ったならば見知らぬ著者との結びつきが生まれ、自身の生きる指針となります。我々は「人」や「書物」等の「別個の生命」に「邂逅」することによって、異なった生命が交わり摩擦し合って、精神の訓練を受け、初めて「我」を自覚するのではないだろうか。

人間の生活圏とは狭いもので、我々は一生の間に、全社会の部分部分を、わずかに体験するだけだと思われます。これが現実である以上、この狭い中で「邂逅」（良き人・良き書物との巡り会い）の大切さを知る人こそ、真の社会性を備えていると言えるのではないでしょうか。

お願いとお知らせ

一、毎号裏面掲載の「法華経と私たち第二十九回」は、次号に掲載致します。

一、お墓の名義人が転居などで住所が変わった場合、新しい住所、電話番号など、管理寺務所にご連絡下さるようお願い致します。

一、管理料を複数年度未納の方がありますが、管理料については、毎年その年の三月末日納入の前納制になっています。料金は、年間一二、〇〇〇円となっています。納入方法は、
①多摩信用金庫秋川支店への振込
②年に一度の自動払込（自動払込はゆうちょ銀行のみとなっています）
③墓参の時に持参
の三つの方法があります。ご不明の点は管理寺務所にお問い合わせ下さい。

尚、寺務職員の勤務時間は、午前九時から午後五時になっています。緊急のご連絡の場合以外は、なるべく早めのご連絡をお願い致します。

一、宝清寺では六尺のお塔婆を使用していましたが、皆様から持ち運ぶ時に、長くて、重すぎるとのご意見が多数ありましたので、今後は五尺のお塔婆に変更致します。
お盆にはお塔婆を建てて、墓参致しましょう。

お檀家の画家 望月一雄氏寄贈絵画
十一面千手観音の荘厳具・持ち物（右手と左手）について

前号（一三五号）で、『千手観音の頭上十一面』について解説しました。今回は千手観音の荘厳具・持ち物（腕の前で合掌する二本の手を除いた左右合わせて四十本の手）について解説致します。

荘厳具について

仏像などの装飾を荘厳具と言い、仏体は宝冠、耳飾り、胸綴（きょうてつ）、瓔珞（ようらく・珠玉を連ねた首飾りや腕輪）、条帛（じょうはく・上半身にたすき状にかける布状の着衣）、裳（も・下半を覆うスカート状の衣類）等の荘厳を身につけています。

持ち物について

①宝鏡（ほうきょう）人々の煩悩や迷いを映し出し、それを取り除くための知恵を得ることが出来る。

②月輪（がちりん）月をかたどった円形の持ち物。「大地の母」、「水の神」として信仰されていた。熱や毒を消す宝の珠。

③経箱（きょうばこ）衆生の様々な願いを叶え、救済するための「方便の教え」が記されている経典を収める。

④宝珠（ほうじゅ）「如意宝珠」と呼ばれ、人々の願いを叶える宝の珠。

⑤右化仏（けぶつ）人々を救済する為に観音菩薩が変化して現れる、小型の仏像。

⑥独鈷杵（どっこしょ）人間の煩悩を打ち砕くための密教法具で、両端に鋭い刃がついており、邪を払う力の象徴。

⑦経巻（きょうかん）宝経のことで、仏典そのもの。

⑧三鈷杵（さんこしょ）古代インドの武器で、人々の煩悩や障害、災難を打ち砕くための法具。

⑨斧（おの）「えっぷ」とも呼ばれ、煩悩を断ちきる知恵の象徴としての武器。

⑩法印（ほういん）法輪や宝印を指し、仏教の教えや悟りを表す。

⑪右開蓮（かいれん）蓮の花が開き、悟りを開いた状態を意味する。

⑫宝箭（ほうせん）矢のこと。弓に対する法具で悪を退け災いを払い、良き縁に巡り合うといった、霊験を表す。

⑬葡萄（ぶどう）葡萄は一房に沢山の実をつけることから豊穣を意味し、その栄養価の高さから健康や病気治癒の願いが込められている。

⑭柳（やなぎ）楊枝と呼ばれ、病魔の侵入をふせぎ健康を願う意味がある。

⑮胡瓶（こびょう）ペルシャ風の水差しで、中に溜めた功徳の水（仏の教えや恵み）を衆生に与える。

⑯右未開蓮（みかいれん）まだ蓮が開花していない状態で「修行中の身」であることを意味し煩悩に囚われた私たちの中に眠る悟りの可能性を開花させようとする、慈悲と救済の意思を象徴している。

⑰数珠（じゅず）お題目やお念仏を唱える回数を数えるもので、煩悩が消滅し、功徳が得られる。

⑱錫杖（しゃくじょう）先端に輪がついた杖で、歩くたびに「シャンシャン」と音をたてて、厄災や魔を払い、毒蛇や害虫から身を守る法具で、音によって人々の心の悪を払い、善心を呼び起こす意味を持つ。

⑲右鉄鉢（てっぱつ）仏教修行者が食事の際に使用する食器。宝鉢（ほうはつ）とも呼ばれ、鉄製または木製の鉢。

⑳鉾（ほこ）宝戟（ほうげき）、宝棒（ほうぼう）と呼ばれ棒状の武器。鬼神などを従わせる力や悪を退散させる象徴。

㉑日輪（にちりん）一般的に宝鏡（ほうきょう）と呼ばれ、太陽の光を象徴する宝珠。太陽の光が闇を照らすように、人々の心の闇を照らし、煩悩を払うことを象徴している。

㉒宮殿（くうでん）浄土にある宮殿。

㉓左化仏（けぶつ）⑤の解説と同様。

㉔輪宝（りんぽう）仏宝の象徴である「法輪」のことで、障害を打ち砕く力を持っている。俗悪な説を論破する力になぞられ、刃を備えた車輪の形をしている。

㉕雲（くも）「五色雲」を指し、不老長寿の象徴とされている。仏教における五色雲は、白、黄、赤、黒、青の五色で薄く輝く雲のことで、良いことの前兆を示す「彩雲」や「瑞雲」とも呼ばれている。五色の意味は、白（まこと）、黄（精進）、赤（心に強く留めること）、黒（雑念を払い心を清らかにする）、青（悟り、知恵）。

㉖五鈷鈴（ごこれい）密教で使われる法具で、五鈷杵の形をした柄に鈴が取り付けられている。澄んだ音色は煩悩や邪気を払い、空気を清めて心を落ち着かせるといわれている。魔除け、悪事災難から人々を守る力があるとされる。

㉗貝（かい）一般的には法螺貝を指し、楽器として使用。その力強い音色で衆生を呼び覚まし人々を救いの道へ導く。

㉘鉄鈎（てっこう）「龍神」を降伏させるための道具。「龍神」は水、風、雲、雷などの自然界を司る神で、古来より日本では雨乞いや豊穣、自然災害からの守護神として信仰されている。

㉙左開蓮（かいれん）⑪の解説と同様。

㉚勤環（きんかん）「玉環」ともいわれ、円満や広大な救済の力を象徴している。

㉛宝剣（ほうけん）煩悩を断ちきるための「三鈷剣」のことで、悪や迷いを断ち切る宝剣。

㉜払子（ほっす）煩悩や迷いの心を払う法具。

㉝髑髏宝杖（どくろほうじょう）鬼髑髏のついた杖。鬼神を操る力や人間の生のはかなさを悟らせ、内省を促す象徴。

㉞宝弓（ほうきゅう）右手に持つ「宝箭」と対になる武器で、「宝弓」は栄誉をます利益があり、「宝箭」は良き友に巡り合う利益がある。さらに、悪魔を退散させたり、災いを避ける力があるとされる。

㉟左未開蓮（みかいれん）⑯の解説と同様。

㊱水瓶（すいびょう）軍持（軍事）とも言われる。清めるための清なる水が入った容器で、仏の世界に生まれ変わることを象徴している。この水は人々を苦しみから救い出す慈悲の心を現している。

㊲索（さく）羂索（けんさく）という縄（ロープ）のことで迷い苦しむ人々を確実に救い上げるための道具。

㊳盾（たて）傍牌（ぼうはい）といい、盾のような役割があり、悪い獣を遠ざける。

㊴左鉄鉢（てっぱつ）⑲の解説と同様。

㊵施無畏印（せむいいん）衆生の恐れや不安を取り除き、安心させるという仏・菩薩の慈悲と力を象徴的に表した印相（手の形）。

- **意味・・**「畏（おそ）れを施しなくす」すなわち「畏れなくてもいいよ」と励まし、衆生が抱える一切の煩悩や恐怖心を取り去り、安楽を得させるという意味が込められている。
- **手の形・・**一般的には右手の五指を揃えて伸ばし、手の平を正面に向けて肩のあたりに上げる形で表される。
- **由来・・**仏伝によると、釈迦がかつて凶暴な象に襲われた際、この手の形を示したところ、象が即座に鎮まったという故事に由来するとされています。